

# 魅力満載!! 三江線

## 江の川沿いの風情



《26》

てている。  
 中国太郎の異名を持ち、暴れ川の一面を持つ江の川のこと、大雨が続けば、心配で夜も眠れぬ日々を送ることだろう。土を、風を、作物

を見る彼の目は厳しく、窓から、何げなく眺める風景にも、そこに生きる人々の命の鼓動が感じられる。  
 (NPO法人「結まーるプラス」・かわべまゆみ、江津市桜江町在住)

おわり

「三江線の復旧を機に、江の川沿いの魅力や風情について、紙面で紹介いただけないか」というお話をいただいたからスタートしたこの企画も、連載開始から丸一年がたった。

反田孝之さん。四年前に、千葉からUターンして以来、江の川流域で、特産の桜江ゴボウや米作りに取り組んでいる。

彼は言う。「有機農法で大規模な露地栽培に取り組みたい。故郷である二十五回にわたって紹介してきたが、まだまだ江の川の魅力は奥深く、そ

や人々の営みを守っていききたいから」  
 彼に出会ったのは、過疎化と少子高齢化が深刻なこの地域は、やがて荒廃し消滅していくかもしれない」という危機感を、私が切実に持ち始めたころだった。

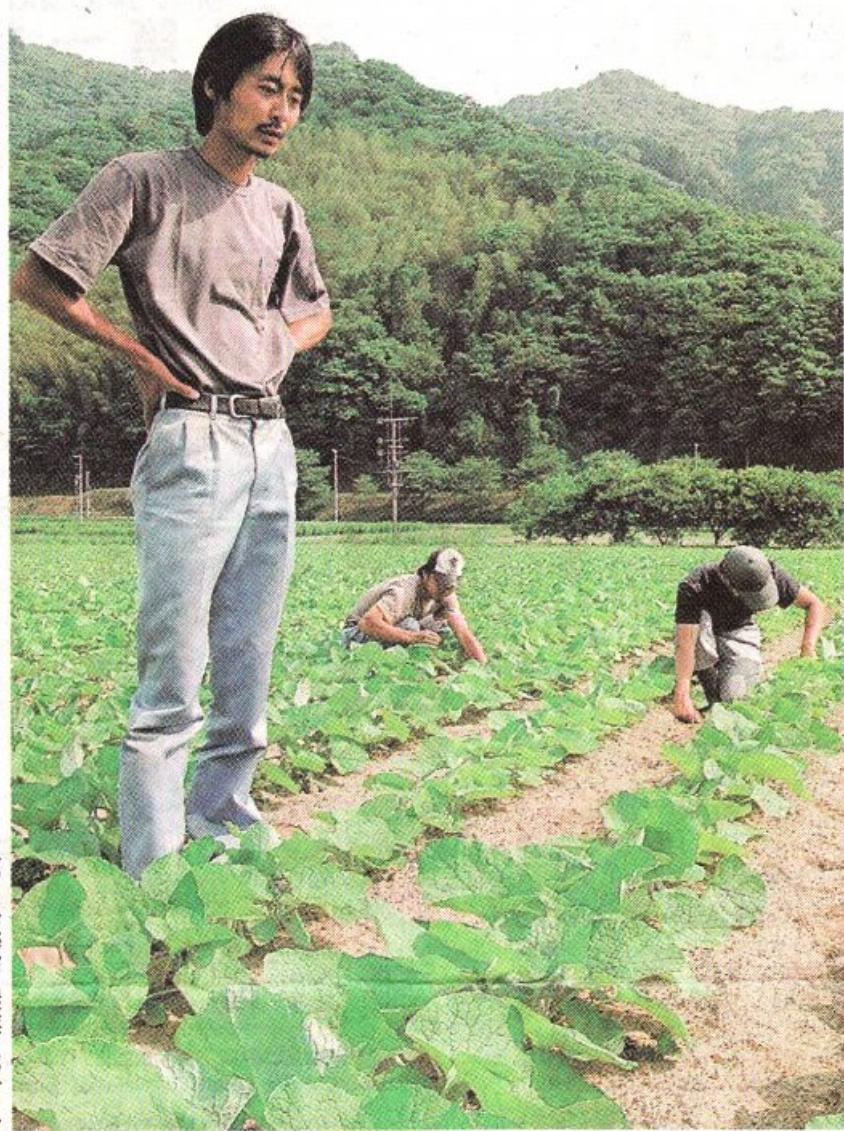
しかし、彼の言葉を聞き「沈む船からはネズミも逃げ出す」というけれど、こんな素晴らしい志を持った青年が帰って来たのだから、この地域は大丈夫だと心を強くした。

以降、彼は明るいうちは畑や田んぼに出て働き、暗くなればパソコンに向かい研究を重ね、しっかりとした農作物を育てている。

「三江線の復旧を機に、江の川沿いの魅力や風情について、紙面で紹介いただけないか」というお話をいただいたからスタートしたこの企画も、連載開始から丸一年がたった。

反田孝之さん。四年前に、千葉からUターンして以来、江の川流域で、特産の桜江ゴボウや米作りに取り組んでいる。

彼は言う。「有機農法で大規模な露地栽培に取り組みたい。故郷である二十五回にわたって紹介してきたが、まだまだ江の川の魅力は奥深く、そ



## 農にかける青年たち

# 沿線に感じる明るい未来

江の川流域で農業に取り組む反田孝之さん(左)。土を、風を、作物を見る彼の目は厳しく、温かい